福井県社会福祉協議会

平成元年４月13日　第三種郵便物認可（毎月１日発行）
平成25年12月１日発行

ふくい社会福祉

ふれあいネットワーク

12
No.397

つないでキラリ☆まち・ひと・えがお。

温故知新 ～一途に社協道～

縁

曹洞宗　放光山 瑞林寺
住職　瀬戸（せと）　弘湧（こうゆう）さん（美浜町）

美浜町早瀬は、三方五胡のひとつである久々子湖と若狭湾の双方に面しており、漁村として栄えていました。

漁獲にも恵まれ、京都や近江方面に行商を行い、財力を高めたようです。町並みもその当時の名残で土蔵や道路に沿って長い平入りの町家が多く見られるなどその時代の佇まいを残しています。

昔のお寺は、学校であり、集会所や避難場所でもありました。つまり、宗教以外の地域への貢献度がとても大きかったんだと思います。この地区は、地域の歴史を住民と共に歩んできたこともあって、今でもお寺の役割は昔とさほど変わっていないように思います。「宗教を信じる、信じない」というよりも、もっと自然な形で常識や習慣のような感覚で生活の中に溶け込んでいるようです。

一方で、近年、お寺を取り巻く環境も大きく変化し、核家族化や家意識の希薄化、少子化などの社会環境の変化に伴って、お寺離れやお寺自体が減少する傾向にありますが、お寺が減るということは、地域住民の結びつきが薄れるとことにもつながるのではないかと危惧しています。

先般、思わぬご縁をいただいた、さだまさしさん原作の「サクラサク」（2014 年 4 月公開）ですが、実は、さださんのお父さんが幼少期に中国から引き揚げ、第二次世界大戦前（第一次世界大戦後）の一時期をこの地で暮らしていらっしゃいました。これがご縁で、原作と同じこの美浜町（早瀬）で映画撮影が行われ、本堂もロケ地になりました。

さださんとお父さんも取材で早瀬を訪れ、自坊にもお立ち寄りくださいましたが、昔と変わらぬ風景を懐かしんでおられたのが印象的でした。

ご縁とは、人と人を結びつける力や人とものを結びつける力、また、人とことを結びつける力をもっているとても不思議な力です。

人は、さまざまな縁の中で生かされ、決して自分一人では生きることができません。改めて、日々に感謝し、暮らしていかなければと強く思います。

表紙の企画について
様々な人たちの目線から「地域のつながり、人とのつながり」に関するメッセージをいただいています。

この広報紙は共同募金の配分金を受けています。

い・つながりフォーラム2013を開催

席上揮ごう&記念講演

席上揮ごうでは、書家　金澤翔子（しょうこ）さんによる書の実演が行われました。約1畳サイズの大きな紙2枚に、『慈愛』という文字がしたためられました。翔子さんの純粋で強い心が伝わってくるような、とても素晴らしい書で、会場に披露されると参加者から大きな拍手が巻き起こりました。

また、翔子さんの母である書家金澤泰子（やすこ）さんに「ダウン症の子を育てて学んだこと」というテーマでご講演いただきました。ダウン症の子の親であり、書道の指導者でもあった泰子さんが、どのように娘の翔子さんと向き合い、彼女の生き方にどう寄り添ったのか、苦難のなかでも翔子さんを信じ、決してあきらめなかった率直な思いをお話いただきました。失意のどん底から現在に至るまでの経験をもとに「闇の中にこそ光がある」「生きてさえいれば幸せは訪れる」など印象的な言葉を語られ、今幸せの絶頂にいるお二人の強い絆を感じるとともに生きる力をいただけるような講演会でした。

講演の最後には、翔子さんが再び登場し、「マル・マル・モリ・モリ！」の音楽に合わせて、軽快なダンスを披露してくださいました。

特別支援学校の作品展

障害者総合支援法が今年制定されたことにちなんで、県内の特別支援学校9校の児童・生徒さんが制作した作品約230点を展示しました。図工や美術等の授業で制作した味わい深い絵画や彫刻等、また作業学習で心をこめて制作した陶芸や木工、布製品等の作品など多種多様なものが会場を彩り、来場者の目を楽しませていました。

セルプ振興センター物品販売会

右記の作品展とあわせて、障がい者事業所等で作られたセルプ商品や東日本大震災の被災地の商品の販売が行われ、多くの方に購入していただきました。収益は障がい者就労支援や東日本大震災被災地の復興支援に役立てられます。

第60回記念福井県社会福祉大会、ふく

表彰式典

福井県の福祉向上に功績のあった民生委員・児童委員、福祉施設、社会福祉団体、社会福祉協議会の役職員、ボランティア等183人と16団体に対し、福井県社会福祉協議会会長より表彰状が授与されました。

また、あわせて、平成25年度福井県ボランティア作文コンクールの表彰式も行われ、最優秀賞4名に福井県知事より、優秀賞3名・入選12名・学校賞2校に福井県社会福祉協議会会長より表彰状が授与されました。(受賞者および入賞者については次頁に掲載)さらに、第60回大会を記念し、地域福祉実践の功績を評価・顕彰する「ふくい地域福祉実践賞」の創設発表や大会宣言も採択されました。

第4回エコキャップアートコンテスト

このコンテストは、ペットボトルのキャップを使って大きな絵(アート)を制作するもので、県民のみなさんが「つながり」を実感したり、その「楽しさ」や「喜び」を共感したりする機会づくりを目的に、平成22年度から実施しています。

第4回目となる今年は『しあわせ(Happy)』をテーマに1畳部門、2畳部門あわせて34チームがエントリーし、フォーラムにおいて、作品展示・審査・表彰を行いました。

どの部門も、力作ぞろいで、会場では、「迫力がある」「デザインがステキ」「テーマのとおり、作品を見ていると幸せな気持ちになれる」等の声が聞かれました。

大賞・優秀賞の4作品は、12月16日(月)～20日(金)の間、福井県庁1階の県民ホールで展示します。

受賞されたグループのみなさん

≪1畳サイズ部門≫		≪2畳サイズ部門≫	
大賞	森田小学校なかよし・おおぞら学級	大賞	グループホームゆうなぎ・小規模多機能ホームひびきの家
優秀賞	武生南児童センター	優秀賞	芦原中　1年　造形グループ
Happy賞	おくえつザウルス	Happy賞	池田エコキッズ

大賞(1畳部門)

大賞(2畳部門)

優秀賞(1畳部門)

優秀賞(2畳部門)

このコンテストで集まったキャップは、約322,000個

コンテストで使用したキャップは、グループごとにリサイクルし、その売り上げで海外の子どもたちにワクチンを提供するエコキャップ運動に寄付していただきます。
キャップ860個で1人分のポリオワクチンに換えることができます。

平成25年度福井県ボランティア作文コンクール入賞作品決定

福井県社会福祉協議会では、平成22年度から、ボランティア活動に県民誰もが参加いただけるよう、市町社会福祉協議会をはじめ各種関係機関と協力して「『つながれボランティアの輪』推進運動」を展開し、さまざまな事業を実施しています。

このコンクールは、その事業の一つとして行っているもので、作文を通じて、県民の皆様のボランティア活動への関心や参加意欲を一層高めてもらうとともに、世代を超えた福祉教育の推進を図ることを目的に平成9年度から実施しており、今回で17回目となります。

今年度は「ボランティア活動の経験から得たこと・感じたこと」「ボランティアについての自分の思い・考えていること」をテーマに募集したところ、716点のご応募をいただきました。厳正な選考の結果、次の皆さんが入賞されました。おめでとうございます。

小学生の部：155点　中学生の部：426点　高校生の部：129点　一般の部：6点

最優秀賞			
小学生の部	「ふたつのなまえをもつおじいちゃん」	越前市武生南小学校	1年　川本　一遥
中学生の部	「つながる心」	福井市明倫中学校	1年　池上　里萌
高校生の部	「思いやりと感謝の心」	福井県立ろう学校高等部	3年　砂川　城二
一般の部	「久々の手話通訳」	坂井市	辻川　定男
優秀賞			
小学生の部	「ま夏の草むしり」	福井市岡保小学校	5年　橋本　研人
中学生の部	「国際協力について」	美浜町美浜中学校	3年　四ッ橋　千香
高校生の部	「東日本大震災への思い」	福井県立ろう学校高等部	2年　宮本　大喜
入選			
小学生の部	「勇気あるおじいさん」	池田町池田小学校	6年　野路　良介
	「ぼくのボランティア」	鯖江市鳥羽小学校	4年　高島　直人
	「初めてのボランティア」	永平寺町上志比小学校	4年　吉田　優羽
	「わたしの名前の意味」	福井市豊小学校	3年　山下　綾心
中学生の部	「保育ボランティアに参加して」	鯖江市鯖江中学校	3年　恵美　里奈子
	「ボランティアで大事なこと」	福井市安居中学校	3年　小島　由乃
	「ボランティアから得たもの」	鯖江市鯖江中学校	2年　定兼　拓永
	「進んで参加するボランティア活動」	福井市社中学校	1年　中山　雅史
高校生の部	「ボランティアで学んだこと」	啓新高等学校	2年　白崎　愛莉
	「ボランティアっていいな」	福井県立福井農林高等学校	1年　尾嵜　春香
	「ボランティア活動の経験から」	福井県立福井農林高等学校	1年　川越　あきみ
	「私が学んだこと」	福井県立福井農林高等学校	1年　谷口　沙里菜
学校賞	坂井市立大石小学校		
	福井市社中学校		

（敬称略）

小学生の部　最優秀賞
「ふたつのなまえをもつおじいちゃん」

越前市武生南小学校　1年　**川本　一遥**

わたしのひいおじいちゃんはひとりだけどふたつのなまえがあります。ふつうのひのひいおじいちゃんのなまえと、みんようのときのひいおじいちゃんのなまえです。みんようのときのなまえは「とよあき」といいます。とよあきのときのひいおじいちゃんは、みんようでろうじんホームとかをたずねて、いもんボランティアかつどうをしています。

このまえ、５００かいめのボランティアにはじめてろうじんホームにいきました。ひいおじいちゃんは85さいです。でも、もっとおとしよりのおじいちゃんやおばあちゃんたちがたくさんいて、ちょっとわからないこともいっていて、どきどきしてこまってしまいました。でも、ひいおじいちゃんたちのうたをきいてもらうと、ホームのおじいちゃんたちが、とってもにこにこして、てをたたいてくれていました。また、おばあちゃんがとってもわかいひとみたいなえがおになりました。わたしも、いもうとといっしょに、おめでとうのおはなをわたしました。かわいいねえといって、あくしゅをしてくれるおばあちゃんたちがいました。そのときは、ドキドキもなくなって、うれしいきもちがいっぱいになりました。

いままでボランティアというのは、ごみをひろったりすることしかしらなかったので、ひいおじいちゃんのように、じぶんができることがボランティアになるんだなぁとおもいました。ひいおじいちゃんは、たくさんのひとのことをうれしいきもちにすることができるんだなぁとじぶんのことみたいにうれしくなりました。わたしは、にこにこしておじいちゃんたちとおはなしをすることができました。わたしのてはちいさいけれど、あくしゅをするとうれしいというおばあちゃんがいました。じぶんのできることをさがすと、ひいおじいちゃんみたいにふたつのなまえのふたりぶんだけでなく、たくさんのひとのぶんのちからになれるのだとわかりました。

中学生の部　最優秀賞

「つながる心」

福井市明倫中学校　1年　池上　里萌

私は、ある障害者が集まる会に、ボランティアとして参加しました。そこには体をあまり動かせず、車いすに乗っている人が参加していました。

私は最初、とまどいました。上手に話せる人が少ないように思ったからです。言葉を使って話すという手段をなくしたら、コミュニケーションが取れず、相手の気持ちが分からないのではないか。どういう接し方をすればいいのかと不安になりました。そう思っていた時、近くにいた介助の先生が私にこう教えてくれました。

「みんなは心で話をしているんだよ。」

それを聞いて私は勇気を出して接して、私ができる事を一生懸命しようと心がけました。私が関わった人は高校生のお兄さんでした。私が「こんにちは。」という思いを込めて手を触ると、お兄さんの表情や仕草から、お兄さんの心の言葉を受け取れたような気がしました。

この活動の中で、私は「心で会話」することを初めて経験しました。私はこの方法は、どんな人とも話ができる、すばらしい方法だと思います。普段、私達はどれだけ心を使って友達や家族などと話しているでしょうか。うまく心を使わず、相手を思いやらずに話をしてしまうから、知らず知らずに傷つくような言葉を使ってしまうのではないのでしょうか。だから、大げさかも知れないけれど、今、新聞などで目にするいじめや戦争などが起きてしまうのではないかと思います。こう考えると世界の人々が、もっと「心で会話」できるようになるといいなと思います。

ボランティアとしての活動で、私は障害のある人達と楽しい時間を過ごしただけで、あまり役に立てなかったかもしれませんが、逆に大切な事を教えてもらったような気がします。「心で会話」すること。これは、どんな人とでもコミュニケーションが取れる魔法ではないでしょうか。

高校生の部　最優秀賞

「思いやりと感謝の心」

福井県立ろう学校　高等部　3年　砂川　城二

「一番嬉しい事って何?」

ボランティア先で知り合った少年から、こう尋ねられた。

二〇一一年八月、僕はボランティアとして、被災地の宮城県気仙沼にいた。僕の仕事は、猛暑の中、避難した住民の家にアイスを配ることだった。

その避難先で出会った少年が、僕に関心を示し、話しかけて来たのだ。聴覚に障害のある僕は、最初お互いの話がよく伝わらなかったので、筆談でいろいろと会話した。

彼の両親は津波で亡くなり、今は祖母と二人で暮らしている。両親の遺体を探すため、多くの遺体を見てきたことなど。僕は衝撃のあまり、何も答えることができなかった。

唯一、答えられたのは「一番嬉しい事って何?」に対してだけだった。

僕の答えは、

「自分のすぐ傍に仲間がいること」。

その頃僕は、栃木から福井へ転校したばかりで、まだ信頼できる仲間はいなかったのだ。

逆に、僕も少年に聞いてみた。

「一番嬉しい事って何?」

彼は、『ありがとう』って言われることかな。心が温まって、もっと頑張れる気がするから。今はみんなに助けてもらっていて、『ありがとう』しか言えないけど、大きくなったら、みんなから『ありがとう』って言われるくらい恩返ししたい!」と明るく答えた。

幼い身で、過酷な体験をしているというのに、感謝の気持ちをしっかりと持っている。そしていつか恩返しをしたいと言う。僕は彼から大切なことを教えてもらった。

ボランティアとは、心と心のつながりだ。相手を思いやり、そして感謝すること。その心が「恩返しをしたい」という気持ちを育み、次のボランティアへとつながっていくのだ。僕はその心を大切にし、自分のできるボランティア活動を続けていきたいと思う。

一般の部　最優秀賞

「久々の手話通訳」

坂井市　辻川　定男

K君のお父さんが亡くなった。K君は耳が不自由な『ろう者』である。K君は長男ではないから喪主ではない。それでもK君の友人・知人のなかにもろう者が多く、それらの人が弔問に訪れることが予想された。私は近くに住む者として、また、かつて手話を学び、手話通訳の経験もある者として、ただの参列者でいることはできなかった。K君や喪主であるK君のお兄さんとも相談し、通夜のとき手話通訳を行うことにした。たくさん訪れるであろう、ろう者の弔問客がまごつかないように配慮するためである。

ただ私には一抹の不安があった。私は確かに長年手話に携わってきたが、7年ほど前に引退した身だ。手話通訳がスムーズにできるかどうか心配だった。だから手話通訳というよりも、なにかしらのお手伝いができればという気持ちで通夜に臨んだ。

弔問客のほとんどはK君のろう学校時代の同級生だった。私も知っている人たちだ。なんの心配もいらなかった。私は手話通訳というより、それらの人たちの案内係としてこまめに動きまわり、弔問がスムーズにいくように気をくばった。

通夜は滞りなくおこなわれた。多くの弔問客から、「手話通訳ご苦労さん、ありがとう」と声を(手を)かけられたときには、思い切ってやってよかったという思いだった。

ボランティアを始めるには勇気がいる。私のやっていることが本当に役に立つのだろうか……という思いで、躊躇する人もいるのではないだろうか。それでも思い切って飛び込んでみることが大事だと思う。間違っていると思ったら軌道修正すれば良い。多くの先輩たちに教えてもらいながら、自分なりの道を見つければ良い。なによりも初めの一歩、そして次の二歩が大事なのではないか。私はそう思っている。

平成25年度 福井県社会福祉協議会会長表彰【敬称略】

民生委員児童委員功労（63名）

福井市　秋田関子
敦賀市　池宮久子
福井市　出見法龍
敦賀市　一瀬美代子
勝山市　伊藤雅子
福井市　井上毅則
越前市　岩佐通子
福井市　岩佐良子
福井市　岩﨑順子
あわら市　上野義輝
敦賀市　大野恵美子
敦賀市　岡本啓子
福井市　小倉啓一
福井市　片山美智子
福井市　川﨑美枝子
福井市　川中洋治
鯖江市　川西千鶴
敦賀市　岸本幸子
越前町　木下賢一
福井市　黒川俊枝
坂井市　月僧通陽子
福井市　小竹修美
坂井市　小林孝子
越前町　駒野傳一郎
福井市　齊藤忠男
勝山市　佐久間雪子
敦賀市　塩谷佐智子
福井市　清水和夫
福井市　清水信一
福井市　平　みどり
勝山市　髙野ことみ
福井市　髙橋由治
福井市　田中文江
永平寺町　田中眞佐子
福井市　谷口祐子
あわら市　坪田康子
池田町　内藤忠雄
敦賀市　中谷誠一
福井市　中野梅子
福井市　西井邦夫
勝山市　西川美恵子
福井市　橋詰　力
福井市　橋本好雄
敦賀市　長谷敦子
敦賀市　浜田富美子
福井市　平井幸子
池田町　廣畑和子
坂井市　廣部政見
敦賀市　古長哲人
坂井市　堀田美代子
敦賀市　正本克司
敦賀市　松井京子
勝山市　松谷　九右エ門
福井市　宮田康孝
福井市　宮永節子
福井市　室　千代乃
坂井市　森　康治郎
勝山市　山岸祐子
福井市　山﨑玲子
永平寺町　山澤昌子
越前町　山下信一
敦賀市　山本壽男
福井市　渡邉紀男

社会福祉施設功労（35名）

鯖江市　有城幸代　ライフトレーニングセンター
敦賀市　井関弘美　白梅学園
福井市　伊藤和行　ふくい福祉事業団事務局
鯖江市　伊藤　紫　ライフトレーニングセンター
敦賀市　上野みゆき　白梅学園
越前町　梅田充代　光が丘ワークセンター
大野市　大藤陽子　大野荘
大野市　奥村智美　希望園
福井市　覓　達雄　若越ひかりの村
大野市　榊原恵美子　大野和光園
鯖江市　清水亜紀　障害者支援センターこうどうえん
大野市　下島和恵　希望園
大野市　土田幸千代　希望園
福井市　敦賀弘道　あすわ相談支援センター
おおい町　土井　円　楊梅苑
福井市　中林光夫　足羽更生園
敦賀市　中村睦也　白梅学園
大野市　早川雪代　大野和光園
坂井市　番場知明　コミュニティかすみ
南越前町　兵江豊美　ほのぼの苑
鯖江市　藤田美希　五岳園
福井市　藤田有美　足羽利生苑
越前町　堀　栄子　やすらぎ荘
鯖江市　三浦　彩　五岳園
福井市　水上貴之　若越ひかりの村
福井市　宮越幸治　福井美山荘
越前町　村岡英明　デイサービスさざんかホール
敦賀市　森　瑠美　白梅学園
大野市　森本ひとみ　福井県済生会聖和園
南越前町　山口真弓　ほのぼの苑
福井市　山﨑美知代　若越ひかりの村
福井市　山下雄市　福井美山荘
坂井市　山田留美子　白楽荘
坂井市　横田典子　白楽荘

社会福祉施設功労（保育施設）（37名）

越前町　青山美智代　朝日中央保育所（公立）
勝山市　阿部明代　松文保育園
勝山市　阿部由美恵　鹿谷保育園
福井市　荒木吉子　河合保育園（公立）
福井市　飯沼美穂子　若草保育園
坂井市　市川美穂　つぼみ保育園
鯖江市　井上和恵　慈光保育園
鯖江市　大久保ゆかり　吉川保育所（公立）
福井市　大嶋洋子　河合保育園（公立）
勝山市　笠川いづみ　松文保育園
越前町　門　繭美　たいら保育園
越前市　川崎紀子　岡本保育園（公立）
おおい町　川島真苗　大島保育所
福井市　川島嘉恵　花園保育園
福井市　川南貴世江　西安居保育園（公立）
福井市　木下幸美　仁愛保育園
勝山市　木村尚子　松文保育園
坂井市　国京則子　つぼみ保育園
福井市　久保田沙織　文殊保育園（公立）
勝山市　河野実希　ケイテ―保育園
鯖江市　斉藤　恵　鯖江市子育て支援センター（公立）
越前町　鈴木由美　城崎南保育所
福井市　諏訪睦美　社保育園（公立）
福井市　大學華子　西部保育園（公立）
越前町　高橋紀代子　三島保育園（公立）
越前町　谷口万絵　宮崎中央保育所（公立）
福井市　玉村美幸　上太田保育園（公立）
福井市　豊岡芳恵　北部保育園（公立）
勝山市　西出典子　ケイテ―保育園
鯖江市　林　恭子　神明保育所（公立）
勝山市　廣田喜代美　鹿谷保育園
福井市　藤木裕美　仁愛保育園
越前町　寶田裕通　西徳寺保育園
越前町　前田直美　織田保育所
永平寺町　松川由喜江　なかよし幼児園（公立）
福井市　山下和美　日光保育園
越前市　山田りか　北日野保育園幼稚園（公立）

社協・民間団体功労（14名）

小浜市　一圓敏彦　小浜市社会福祉協議会　監事
南越前町　川崎桂子　南越前町社会福祉協議会
越前市　黒田輝子　越前市母子寡婦福祉連合会　役員
福井市　高田彌生　湊地区社会福祉協議会　副会長
南越前町　内藤智明　南越前町社会福祉協議会
福井市　中野一男　福井市肢体障害者福祉協会　理事
南越前町　藤井喜子　南越前町社会福祉協議会
福井市　松尾昭一　順化地区社会福祉協議会　理事
越前町　宮﨑泰治　越前町社会福祉協議会　会長
敦賀市　村上早苗　敦賀市社会福祉協議会
小浜市　山岸博之　小浜市社会福祉協議会　会長
福井市　山口清盛　明新地区社会福祉協議会　会長
福井市　山下武男　大安寺地区社会福祉協議会　理事
福井市　米村美智子　和田地区社会福祉協議会　副会長

永年勤続功労（13名）

坂井市	上田多美子	坂井市社会福祉協議会
福井市	片岡冨代	福井市民生委員児童委員
福井市	黒川允子	福井市民生委員児童委員
坂井市	高尾美千代	まごころ保育園
福井市	竹内倫自	福井市社会福祉協議会
福井市	立壁末子	福井市ふれあい公社
福井市	島琴美	福井県社会福祉協議会
福井市	古澤淑	福井市民生委員児童委員
鯖江市	南祥子	新横江保育園
福井市	安野正士	福井市民生委員児童委員
福井市	山田紀美江	東部保育園（公立）
福井市	横山重人	福井県社会福祉協議会
福井市	吉田菜留美	東部保育園（公立）

優良社会福祉協議会（1団体）

福井市	棗地区社会福祉協議会

優良ボランティア（個人）（20名）

永平寺町	大西多喜子	坂井市
坂井市	小倉洋子	永平寺町
大野市	尾崎美子	坂井市
永平寺町	川尻ひろ子	越前市
永平寺町	川端藤子	坂井市
永平寺町	河野君江	大野市
南越前町	小谷富美枝	南越前町
越前市	坂戸和枝	永平寺町
坂井市	佐々木ヒフミ	大野市
高浜町	鈴木登志江	永平寺町

優良ボランティア（7団体）

坂井市	琴翔会
坂井市	さかい手話達
坂井市	三弦会
坂井市	助人

社会福祉協助者（感謝）（2社）

坂井市	福井県建築組合連合会　坂井組合
敦賀市	ボランティアアドバイザーサークル根っこの会
南越前町	南越前町赤十字奉仕団南条分団

特別表彰（6団体・1名）

金沢市	カナカン株式会社「乾親会」
福井市	公益社団法人　生命保険ファイナンシャルアドバイザー協会福井県協会
福井市	財団法人　積善会
福井市	福井県信用金庫協会
福井市	福井県生命保険協会
福井市	福井県麺業青年連合会
福井市	松原紘子

「ふくい地域福祉実践賞」の創設を発表

60回目の開催となった社会福祉大会では、功績顕著な地域福祉実践を顕彰する「ふくい地域福祉実践賞」の創設（平成26年度から実施）が発表されました。

この制度は、県社協初代会長 黒川誠三郎 氏の『福祉をすすめる人々には十分な理解と率先垂範の心構えが必要である』という志を受け継ぎ、県民ぐるみの「ふくいの福祉実践」の基盤づくりをすすめるものです。

◆顕彰内容◆

⑴対象　地域福祉実践に取り組む個人、団体

⑵枠数　優秀実践賞　3～5個人（団体）程度

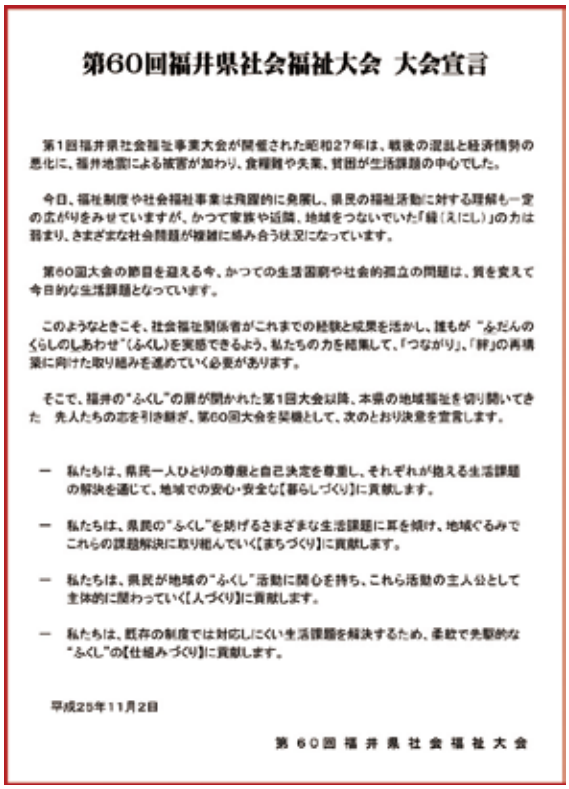
⑶内容　記念楯、実践奨励金の授与

実践賞の概要をスライドで紹介

「第60回福井県社会福祉大会宣言」を採択

社会的孤立や経済的困窮の問題は、地域生活を考えるうえでも今日的な生活課題になっています。

そこで、社会福祉関係者がこれまでの経験と成果を活かし、誰もが〝ふだんのくらしのしあわせ〟（ふくしあわせ）を実感できるよう力を結集し、「つながり」と「絆」の再構築をめざすべく、その決意を大会宣言として採択しました。



第60回福井県社会福祉大会 大会宣言

第1回福井県社会福祉事業大会が開催された昭和27年は、戦後の混乱と経済情勢の悪化に、福井地震による被害が加わり、食糧難や失業、貧困が生活課題の中心でした。

今日、福祉制度や社会福祉事業は飛躍的に発展し、県民の福祉活動に対する理解も一定の広がりをみせていますが、かつて家族や近隣、地域をつないでいた「縁（えにし）」の力は弱まり、さまざまな社会問題が複雑に絡み合う状況になっています。

第60回大会の節目を迎える今、かつての生活困窮や社会的孤立の問題は、質を変えて今日的な生活課題となっています。

このようなときこそ、社会福祉関係者がこれまでの経験と成果を活かし、誰もが〝ふだんのくらしのしあわせ〟（ふくしあわせ）を実感できるよう、私たちの力を結集して、「つながり」、「絆」の再構築に向けた取り組みを進めていく必要があります。

そこで、福井の〝ふくし〟の扉が開かれた第1回大会以降、本県の地域福祉を切り開いてきた　先人たちの志を引き継ぎ、第60回大会を契機として、次のとおり決意を宣言します。

一　私たちは、県民一人ひとりの尊厳と自己決定を尊重し、それぞれが抱える生活課題の解決を通じて、地域での安心・安全な【暮らしづくり】に貢献します。

一　私たちは、県民の〝ふくし〟を妨げるさまざまな生活課題に耳を傾け、地域ぐるみでこれらの課題解決に取り組んでいく【まちづくり】に貢献します。

一　私たちは、県民が地域の〝ふくし〟活動に関心を持ち、これら活動の主人公として主体的に関わっていく【人づくり】に貢献します。

一　私たちは、既存の制度では対応しにくい生活課題を解決するため、柔軟で先駆的な〝ふくし〟の【仕組みづくり】に貢献します。

平成25年11月2日

第60回福井県社会福祉大会

福井県自立促進支援センターを開設！

～福井県社協が生活困窮者自立促進支援モデル事業を受託～

センターの開設

11月26日（火）に福井県自立促進支援センターの開所式が行われました。

このセンターは、厚生労働省のモデル事業で、生活困窮者が困窮状態から早期に脱却することを目的に、利用者の状態に応じた包括的かつ継続的な相談支援および自立・就労支援などを行う機関として、福井県が設置し、福井県社協が事業を受託して運営するものです。

センターは、嶺北地域では福井健康福祉センター一階（福井市西木田2丁目）に、嶺南地域では、二州健康福祉センター二階（敦賀市開町）にオープンしました。

具体的な支援としては、就労その他の自立に関する相談支援と自立支援のためのプラン作成をする「自立相談支援事業」、直ちに就労できない利用者に対して一般就労に向けた支援を行う「就労準備支援事業」、また生活困窮家庭の子どもへの貧困の連鎖を防止するための「学習支援事業」の3つの事業を実施します。それぞれに相談支援員、就労支援員、学習相談支援員が配置され、活動を行います。

モデル事業の目指すもの

本モデル事業は、平成27年4月から、生活困窮者自立支援法のもと福祉事務所を設置する自治体で本格実施されることとなります。今後は、法施行に向け、モデルによる試行的な取組みを通じて、生活困窮者支援の具体的な体制整備のあり方やツール開発等を行い、円滑なスタートができるよう準備を進めていきます。

事業の実施体制

福井健康福祉センターを、拠点施設とし、センター長1名、統括就労専門員1名と相談支援員2名、就労支援員2名、学習相談支援員1名を配置します。二州健康福祉センターには、相談支援員と就労支援員、学習相談支援員をそれぞれ1名ずつ配置します。

具体的な支援について、生活支援に精通した相談支援員と就労支

援の経験がある就労支援員の2人のペアで対応するチーム制を採り、生活支援から就労支援まで一貫した伴走型支援を行います。ニーズに応じて、他機関の協力が必要とされるケースについては、後述の支援調整会議のメンバーにもチームに加わってもらい、チームアプローチで対応します。

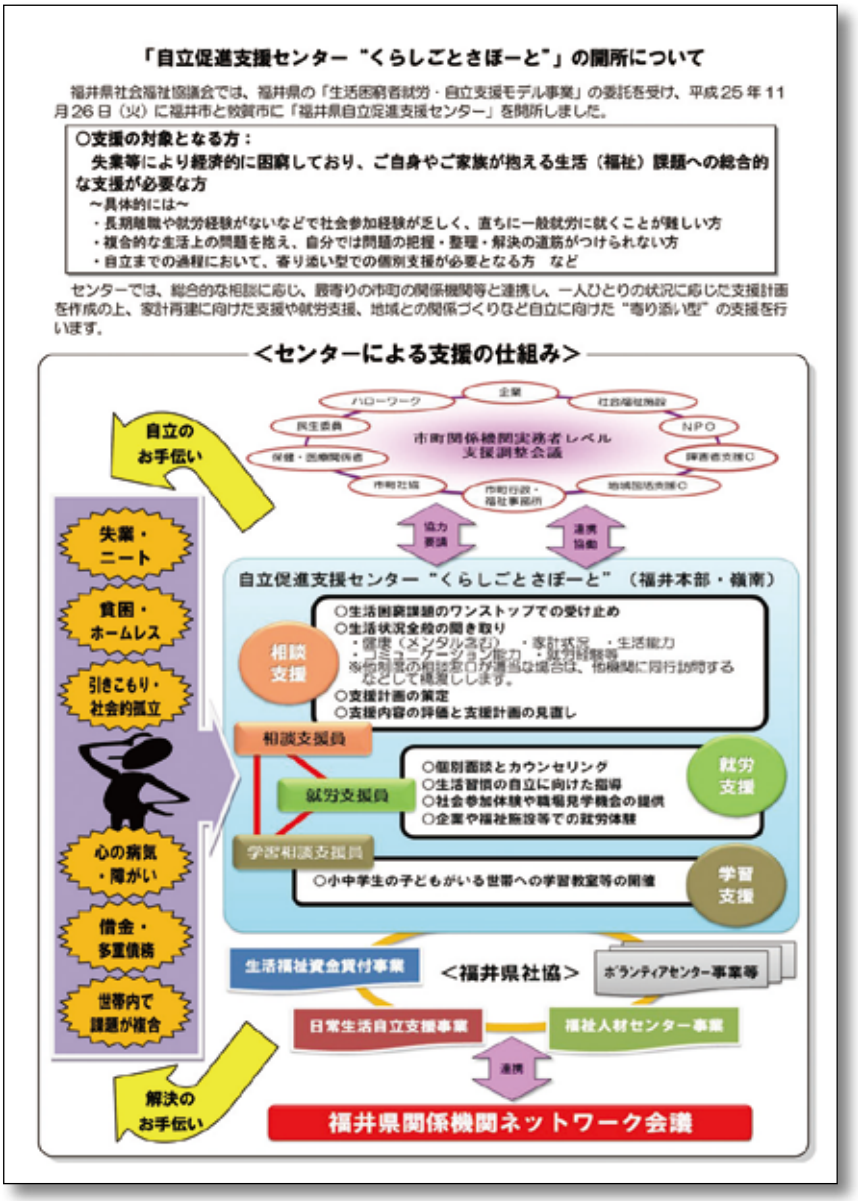
また、本事業に対する関係者への理解の浸透、対象者の早期発見や情報提供、事業の協力要請等を図る「関係機関ネットワーク会議」を設置します。併せて、身近な地域で適切な支援が展開できるよう、支援計画の検討や役割分担等を行う関係機関の実務者で構成する「支援調整会議」をセンターが市町単位で招集します。

関係機関との連携

生活困窮者が抱える問題には就労支援、経済的支援、ニート・ひきこもり、虐待やDVなどがあり、対象者ごとに異なった形で複合しているケースが多いと考えられます。生活困窮者それぞれの状態や想いに寄り添いつつ、問題の解決を図る個別的な支援を行うためには、関係機関・団体との連携が欠かせません。

センターが本県における生活困窮者への支援を推進する上では、福祉事務所・行政、ハローワーク、地域包括支援センター、NPO団体、福祉施設、市町社協、市町民生委員児童委員協議会など各関係機関・団体と協力関係を構築し、連携を密にして事業実施する必要があります。

福井県社協は住民主体を拠り所にして、地域を基盤にした様々な実践を関係者と共に積み上げてきました。これまで地域福祉を推進する上で、培ってきた地域とのネットワーク、専門性を活かして、生活困窮等の個別課題の解決に貢献すべく、モデル事業に取り組んでまいりますので、関係者の皆様のご支援ご協力をお願いします。



地域の相談役

平成25年12月1日 民生委員・児童委員が一斉改選されました。

本年12月1日付けで、民生委員・児童委員（以下「民生児童委員」）が一斉改選となり、厚生労働大臣から委嘱された福井県の1，827名の民生児童委員とその担当地区が決定しました。

民生児童委員は、地域住民の立場に立って、一人暮らし高齢者や障がい者の見守り・相談、子どもや家庭に関わる福祉問題など、身近な相談相手として、ボランティア精神を持って活動しています。また、これらの課題解決に向けて、市町や社会福祉協議会などの関係機関につないでいくなど、住民が地域で安心して暮らせる地域づくりをすすめています。

住民の支え合い福祉マップ作成

子育てサロン

ひとり暮らし高齢者　友愛訪問

民生委員・児童委員の市町別　委員数

（平成25年12月1日現在）

No.	市町名	区域担当委員	主任児童委員	合計	単位民児協数
1	福井市	458	36	494	18
2	敦賀市	133	12	145	6
3	小浜市	91	9	100	6
4	大野市	90	9	99	5
5	勝山市	78	8	86	4
6	鯖江市	113	8	121	4
7	あわら市	59	4	63	2
8	越前市	165	16	181	8
9	坂井市	173	11	184	4
10	永平寺町	50	3	53	1
11	池田町	15	2	17	1
12	南越前町	48	3	51	1
13	越前町	66	3	69	1
14	美浜町	44	3	47	1
15	高浜町	27	2	29	1
16	おおい町	32	2	34	1
17	若狭町	51	3	54	1
合計		1,693	134	1,827	65

今年もやってます！

赤い羽根共同募金

その1 「赤い羽根」で、お得クーポンをゲットしよう♪

福井県共同募金会では、500円以上募金された方に、県内248店舗で使える「クーポン冊子」をプレゼントしています。

上手に使って、あなたも、みんなも幸せになれる「クーポン」をぜひ、ご活用ください！！

※クーポン参加店舗の情報は本会ＨＰで、また、スマートフォンでもご覧いただけます！

http://akaihane-fukui.jp/coupon/

その2 「赤い羽根」限定クリアファイル♪

今話題のバーチャルシンガー「初音ミク」に続き、今年新たに「戦国バサラ」のクリアファイルが新しいアイテムとして加わりました。400円以上の募金でお好きな一枚をゲットしよう！

「東日本大震災」記録集（岩手県社協）

岩手県社協が「東日本大震災」の活動記録集を作成しました。また、災害発生当初の福井県内社協による現地での支援活動への感謝として、漆塗の楯を贈呈いただきました。

ふくい社会福祉 12　ふくい社会福祉　第397号　●編集　総務企画課
●発行　平成25年12月1日　社会福祉法人福井県社会福祉協議会　〒910-8516　福井市光陽2丁目3-22
TEL（0776）24-2339　URL　http://www.f-shakyo.or.jp/
（1部　35円：購読料は会費に含まれます）